

パレット

佐野市男女共同参画都市宣言キャッチフレーズ

～認める 支える 分かち合う 個性かがやく参画社会～



災害に強い佐野市へ



昨年10月12日、台風19号が直撃し、市内は大雨による甚大な被害を受けました。住宅地には川からの泥が流れ込み、山間部では道路がえぐられ、多くの方が避難所に避難することになりました。

災害が起きたときには、みんなが共に協力して乗り越えなければなりません。今回の災害は、自分にできることを行い、互いに協力することが大切だと気づききっかけになったのではないのでしょうか。

復興に向け、いち早く市内に災害ボランティアセンターが設置され、多くの方が市内外から駆け付けてくれました。家財の片付けや泥の撤去など活動の内容はさまざま。活動に参加した市内の女性は、「何かしなければと思い、すぐにホームページを検索しました」と話してくれました。活動の場には若者から高齢の方まで、男女にかかわらず自分にできることに取り組み姿が見られました。

また10月25日から開催予定でした「日本女性会議2019」の「も中止となりましたが、参加を予定していた方から義援金やボランティア活動、支援の申し出をいただくなど、多くの方とのつながりを感じました。」

被災地を明るくしてくれてくれた 若者たち

市内の佐野日本大学短期大学では、災害直後から男女ともに多くの学生が災害ボランティア活動に参加しました。中には留学中の学生もいました。ほとんどが市外出身の学生です。

今回参加した学生に、ボランティアに活動したきっかけや、参加した感想、今後の災害についてどのように考えるか取材しました。



佐野日本大学短期大学の学生。右から梅山菜里さん(健康スポーツフィールド)、橋本ほな実さん(同上)、善林里帆さん(こどもフィールド)、瀬端野乃花さん(同上)、千葉結香さん(同上)、蓮實穂香さん(社会福祉士フィールド)、山口歩優さん(同上)

2019年10月の台風19号は、佐野に大きな被害と市民の心に大きなショックを残して、今までの安全神話よりも早くも崩れてしまいました。それから復興に明け暮れる日々が続き、佐野のイベントは全て自粛せざるを得なくなりました。そんな中、佐野にいちろの望みをつないでくれたのは、若者たちだったのです。今回取材受けてくれた女子学生の声を聞いてください。

「いつも通っていた道なのに、こんな佐野を見たことない、居ても立っても居られないという思いで、被災場所へ駆けつけた。」

「はじめは、泥が重くて動けなくて、どうしたら良いのか分からなかったけど、近くのベテランお兄さんがやり方を教えてくれた。」

「何度も掘り起こした泥の中から土が見えたときは本当に嬉しかった。」「きっかけは、ただやりたいからだっただけ。」

「私たちに出来ることをしようと、一生懸命被災した方の話を聞いた。」「たくさんの方と触れ合うことで嬉しくなった。」

「怖いことも不安なことも、私たちが若いからって隠さないで欲しい。」「しっかりと自分で考えて今後の人生も一生懸命に生きて行きたい。」

取材中ずーっと明るく笑っている彼女たちを見ていて、佐野の未来は明るいと思えたのです。

「これからもお手伝いになることを、率先してやって行きたい。」

そう語る彼女たちが、被災後すぐに行動に移せたのは、若さだけではないのかもしれないですね。隣人を見捨てるにいられたなかったという彼女たちに、本当のボランティア精神を教えられたようでした。

災害支援活動に参加して一言！

若者だけじゃない

被災者の心のケアができるようなボランティアも必要だと思った。(40代女性)

活動にやり残した感があった。復興にはまだまだ時間が必要だと感じました。(30代女性)

ボ災害直後から被害状況及び健康状況の確認を行った。健康サポートを継続して行っている。(保健師女性)

ボランティア参加初日は少しの不安と勇気があったが、運営スタッフのテキパキした指示で安心できました。(50代女性)

消防団が水防団になり越水箇所避難呼びかけ、避難誘導を行った。発生後は田沼総合グラウンドの災害ゴミの仕分けと土嚢片付け、佐野市全域の土嚢片付け。今回は台風避難だったにもかかわらず災害誘導になっており避難場所が水害避難場所でなかった。ハザードマップの確認が重要。(消防団男性)

あなたは災害にそなえ、避難準備してますか？

～かけがえのない命を守るため、避難計画を考えましょう！～

3
日
前

- 台風の進路予報の入手・確認
- 週間天気予報の入手・確認
- ハザードマップで避難所、避難手段の確認
- 防災グッズの点検・準備
- 非常食の点検・準備

2
日
前

- 台風の進路・警戒の見通しの確認
- 明日、明後日の天気予報の確認
- 気象情報(大雨・暴風・洪水等)の入手・確認
- 風雨の強くなる時間帯の確認
- 家族の行動予定と移動手段、連絡手段の確認

台
風
接
近

- 天気予報の確認
- 携帯電話等の充電確認
- 市の防災メールの受信確認
- インターネット・スマホ等で雨の様子、土砂災害・浸水・洪水の危険度確認
- 住まいの周辺・近所の確認
- 避難準備(防災グッズ・非常食の用意、着替えなど)
- 避難決断

「警戒レベル」って何？

災害発生の危険度と、取るべき行動を5段階で表し、避難のタイミングをお知らせするものです。

レベル1・・・心構えを高める

レベル2・・・避難行動の確認

レベル3・・・高齢者等は避難

レベル4・・・安全な場所へ全員避難

レベル5・・・すでに災害が発生している状況

自分と家族がとるべき判断・行動の「いつ」「何を」「誰が」が明確になり、注意事項の整理ができ、防災・減災につながります。いざという時のために備えておきましょう！



佐野ブランドキャラクターさのまる©佐野市

防災グッズ 何を用意していれば良いの？

- 非常食 (1人3ℓ/1日の飲料水、乾パン、缶詰、レトルト食品、缶切り、紙皿やコップなど)
- 衣類 (下着、上着、タオル、毛布、寝袋など)
- 貴重品 (現金、通帳、印鑑、免許証、健康保険証など)
- 日用品 (手袋(軍手)、ガムテープ、懐中電灯、携帯ラジオ、生理用品、大人用おむつなど)
- 安全対策 (ヘルメット、防災ずきん、救急セット、常備薬、底の厚い靴など)
- あると便利なもの (ウェットティッシュ、マスク、ビニール袋、食用品ラップ、笛、カイロなど)
- 子育て用品 (粉ミルク、おむつ、母子手帳、離乳食、離乳ケープ、防犯ブザーなど)

リュックにまとめ、持ち出しやすい場所に保管しましょう！

「パレット賞」を受賞して

～令和元年度男女共同参画推進事業者表彰「パレット賞」受賞事業者に聞く！～



カーシーカシマ(株)奈良原総務部長(写真右)とリンデン・ビーアイ(株)横井社長(写真左)

1月17日市役所において、男女共同参画社会づくりの促進のために、仕事と生活の両立支援や、男女がともに働きやすい職場づくりに積極的に取り組んでいる2社を表彰しました。

「パレット賞」は平成27年度から実施しており、授賞事業者は2社を含めて、11社となりました。

カーシーカシマ株式会社 様 (繊維製品製造業 佐野市戸奈良町)

◇ 評価の理由 ◇

①性別を問わない登用 ②安心して働ける環境づくり ③一般事業主行動計画による事業の推進

◇ 受賞コメント ◇

過去の「パレット賞」受賞記事を見て、ぜひわが社も応募してみようと思ったのがきっかけでした。社内は女性社員が多く、安心して長く働ける職場づくりに取り組んでいます。特にデザイナーが親の介護をするために、在宅勤務や時短勤務など柔軟な働き方ができるようにしたり、介護休暇を設けるなど、取り組んでいます。今後は介護休業を定着させるとともに、有給休暇の取得を進めるなどさらに働き方改革を進めていきたいと考えています。働く女性を美しく輝かせたいです。

リンデン・ビーアイ株式会社 様 (出張理美容・美容サロン業 佐野市堀米町)

◇ 評価の理由 ◇

①個々の能力を活かした体制 ②柔軟な働き方の取組み ③スキルアップの支援

◇ 受賞コメント ◇

柔軟な働き方への取組として、在宅勤務やテレビ会議システムを導入しました。特にテレビ会議を導入したことにより会議のための移動時間を削減することができました。どこにいても会議に参加できるため、社員の意思統一が図れるようになりましたので、在宅勤務者のミーティングとしても活用したいと考えています。今後はパート従業員の有給取得の促進を進めるとともに、5S(※1)の社内環境を進めたいです。美容の資格をわが社で生かしてください。また女性の経営者を応援する取組みもしていきたいです。(※1)整理、清掃、整頓、清潔、しつけ



【編集委員】

阿部 陽子 今井 美砂子
北詰 なな子 黒澤 千賀子
中里 聖子

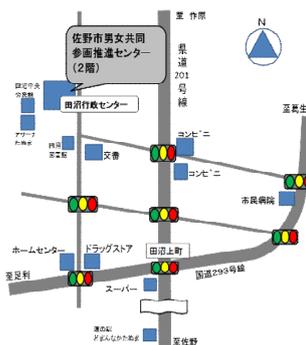
パレット第21号【2020年3月発行】

編集発行 佐野市 市民生活部人権・男女共同参画課

〒327-0398 栃木県佐野市田沼町 974-3

電話 0283(61)1140 FAX0283(61)1142

E-mail: danjokakar@city.sano.lg.jp



【編集後記】

新年を迎えて、被災された方はどう過ごされているのか気に留めながら暮らしています。少しでも明るい話題をと思い、取材しました。いっしょに頑張りましょう。